

平成25年度後期芦安中学校学校関係者評価書

平成26年1月21日

芦安地区学校関係者評価委員会

委員長 松本 賢司



1 経過

○第2回芦安地区学校関係者評価委員会

〔日時〕平成26年1月16日（木）19時30分～20時40分

〔場所〕芦安小学校多目的ホールにて

2 参加者

No.	氏名	役職名	備考	
1	秋山 栄男	芦安子を守る会会長		
2	伊東 隆雅	芦安地区保護司，白雲荘経営， 芦安地区学校応援団コーディネーター		
3	名取 大介	芦安小中学校PTA副会長	副委員長	
4	清水 実	南アルプス市議会議員		
5	松本 賢司	芦安中学校PTA会長	委員長	
6	森本 章雄	芦安地区学校応援団代表		
6	浅川 孝夫	芦安小学校	校長	
7	竹内 幸人		教頭	事務局
8	河住 悦久		教務主任	
9	中込 幸二	芦安中学校	校長	
10	小尾 一彦		教頭	事務局
11	中嶋 恵		教務主任	

3 学校側から提案された内容

〔後期中学校自己評価の分析と改善方策〕

- (1) 後期（12月）教職員アンケート結果
- (2) 後期（12月）生徒アンケート結果
- (3) 後期（12月）保護者アンケート結果
- (4) 芦安中学校後期自己評価書

4 協議された主な内容

- (1) 後期アンケート結果への質疑
- (2) 自己評価の結果の内容についての検証
- (3) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策についての検証
- (4) 今後の芦安地区の教育のあり方について

5 評価委員会で出された主な意見等

(1) 芦安中学校の後期学校評価及び今後の小中学校教育の推進について

・小中学生の人数を増やす意味でも、芦安地区として英会話科に期待がある。白峰祭の英語の登山の発表も素晴らしかった。これからもがんばってほしい。

・あいさつの声が大きくなった。特に、中学生の声が以前よりよくなった。中学生も伸び伸びとしている。あいさつができることは学校運営がよいことである。

→英会話科を推進したことも大きいと思う。その中でコミュニケーション能力が育ってきている。

・絆のつどいとはどのような会か。→生徒会と先生で企画運営し、ゲーム等の活動を通じて、コミュニケーションづくりや仲間づくりを進める会である。

・絆のつどいのような放課後の自由な時間があるならば、そこで、小学校のクラブ活動みたいに、選択制の活動を行ってはどうか。バドミントン部は全員参加なので、生徒がやりたいことをやる機会もあるとよいと思う。

・小学校のクラブ活動に、中学生が入ったらどうか。小中の連携も図られ、文化活動の充実も図られると思う。

・ホームページのアクセス数は、南アルプス市の中では断トツである。芦安小中への関心も高い。今後も、この地域の子どもが伸びているということを情報発信して、ホームページを充実して欲しい。

・小学校の文化発表会と中学校の音楽会の合同開催はとてもよかった。小中学生が一緒にやったことは刺激になったと思う。内容もとてもよかったので、もっと多くの人に来てもらいたい。そのような工夫をしたらどうか。

(2) その他

・小学校より：来年度の入学生は、他地区からはあるが、地元はいない。入学生が増えるように、お知恵をお借りしたい。

・スクールバスや住居面での優遇を地域としても働きかけていきたい。

6 評価・分析

芦安中学校は、「教職員アンケート」「児童・保護者アンケート」やPTA理事会での話し合い等を踏まえ、学校運営や教育活動の達成状況を把握した上で、課題や成果・改善策を分析・整理している。評価が高かった項目は今後も伸ばしていき、まだ不十分の評価項目については改善を図ることが必要である。児童や保護者の願いを踏まえ、職員の共通理解のもとに教育目標の具現化に向けて取り組んでほしい。今後も全職員で一体となり、学校教育目標の「主体的で実践力のある芦中生」の育成の取り組みに推進してほしい。

特に、以下のことについては重点課題として取り組んでほしい。

(1) 芦安小中学校は英会話科や自然体験学習等、特色ある教育活動行っている。そのよさを外部にしっかり情報発信してほしい。

(2) 小中連携しての特色ある学校づくり、特に英会話科への地域の期待も大きい。9年間を見通した教育活動の推進と小中学校、保護者、地域の連携協力による学校づくりを進めてほしい。

(3) 今後も基礎学力の定着や学力の向上をめざし、「授業改善や少人数を活かした授業」「補習学習の充実」「小中連携して学習習慣や学習規律等の習得」「家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化」を図ってほしい。